

AO入試

指定校制
推薦入試

公募制
推薦入試

自己推薦入試

一般入試

センター利用入試

社会人入試

外国人
留学生入試

編入学試験

受験上の注意

出願手続

合格発表
入学手続
入学辞退

学費

奨学生制度

Q&A

平成30年度
入試問題

大学
公募制推薦入試
小論文

大学
公募制推薦入試
教養 (国語)

大学
公募制推薦入試
教養 (英語)

大学
一般入試
(国語)

大学
一般入試
(英語)

大学
一般入試
(数学)

短大
公募制推薦入試
小論文

短大
公募制推薦入試
教養 (国語)

短大
一般入試
(国語)

記入上の注意

記入例

教育福祉学部 公募制推薦入試 (前期) 「小論文」

びわこ学院大学 平成三十年度 推薦入学試験 「小論文問題」

次の文章を読み、あなたの考えたことを六〇〇字程度で述べなさい。

こともというものは実に創造的である。たいていのことは勞せずして詩人であり、小發明家である。ところが、学校で知識を与えられるにつれて、散文的になり、人まねがうまくなる。昔の芸術家が学校教育を警戒したのは、たんなる感情論ではなかったと思われる。飛行機を作ろうとしているのに、グライダー学校にいづまでもグズグズしてはいけぬのはつきりしている。

いまでも、プロの棋士たちの間に、中学校までが義務教育になつてゐるのがじやまだとはつきり言う人がいる。いちばん頭の発達する時期に、学校でグライダー訓練なんかさせられてはものにならない、というのであるらしい。人間には、グライダー能力と飛行機能力とがある。受動的に知識を得るのが前者、自分でものこを發明、発見するのが後者である。両者はひとりの人間の中同居している。グライダー能力をまったく欠いては、基本的知識すら習得できない。何も知らないで、独力で飛ぼうとすれば、どんな事故になるかわからない。

しかし、現実には、グライダー能力が圧倒的で、飛行機能力はまるでなし、という『優秀な』人間がたくさんいることもたしかで、しかも、そういう人も『翔べる』という評価を受けているのである。学校はグライダー人間をつくるには適しているが、飛行機人間を育てる努力はほんのすこしかしてない。学校教育が整備されてきたということは、ますますグライダー人間をふやす結果になつた。お互いに似たようなグライダー人間になると、グライダーの欠点を忘れてしまう。知的、知的と言つていけば、翔んでいけるように錯覚する。

われわれは、花を見て、枝葉を見ない。かりに枝葉は見ても、幹には目を向けない。まして根のことは考えようとしな。とかく花という結果のみに目をうばわれて、根幹に思い及ばない。聞くところによると、植物は地上に見えている部分と地下にかくれた根とは形もほぼ同形でシンメトリーをなしているという。花が咲くのも地下の大きな組織があるからこそだ。

知識も人間という木の咲かせた花である。美しいからといって花だけを切つてきて、花瓶にさしておいても、すぐ散つてしまふ。花が自分のものになつたのでないことはこれひとつ見てもわかる。明治以来、日本の知識人は欧米で咲いた花をせつせつと取り入れてきた。中には根まわしをして、根ごと移そうとしたり試みもな

いではなつたが、多くは花の咲いている枝を切つてきてきたにすぎない。これではこちらで同じ花を咲かせることは難しい。翻訳文化が不毛であると言われなくてはならなかつたわけである。根のこを考へるべきだつた。それを怠つては自前の花を咲かせることは不可能である。もつとも、これまでは、切り花をもつてきた方が便利だつたのかも知れない。それならグライダー人間の方が貴重である。命じられるままについて行きさえすれば知識人になれた。へたに自発力があるのは厄介である。

指導者がいて、目標がはっきりしているところでグライダー能力が高く評価されるけれども、新しい文化の創造には飛行機能力が不可欠である。それを学校教育はむしろ抑圧してきた。急ぎそれをほすとは、さまざま困難がともなう。他方、現代は情報の社会である。グライダー人間をすつかりやめてしまふわけには行かない。それなら、グライダーにエンジン搭載するにはどうしたらいいのか。学校も社会もそれを考へる必要がある。この本では、グライダー兼飛行機のような人間となるには、どういうことを心掛ければよいかを考へたい。グライダー専業では安心していらぬのは、コンピューターという飛び抜けて優秀なグライダー能力の持ち主があらわれたからである。自分で翔べない人間はコンピューターに仕事をうばわれる。

(外山滋比古『ことわざの論理』筑摩書房)

教育福祉学部 公募制推薦入試 (後期) 「小論文」

びわこ学院大学 平成三十年度 推薦入学試験 「小論文問題」

次の文章を読み、あなたの考えたことを六〇〇字程度で述べなさい。

日本人はほめることが苦手で。そしてそんなにほめたら子どもがつけあがらないかと、よく心配します。でもほめたらつけあがるなんてことはまずありません。もつともどもを信用していい。子どもを信用できないのは、つまりは自分を信用してないからなんです。

なぜ自分を信用できないかというところ、これまでは日本人は、そんなに「自分」というものがはつきりしてなくて、「自分」よりも「世間」を信頼してきました。世間様とつながっていて、みんなずつと安心してたわけです。それが急に「世間はともかく、あんたはどう思いますか」なんて言われても困るわけです。

子どもをほめるのが大事だということに、みんながよく間違つてゐるのは、ウソを言うんです。お世辞を言つたりね。ウソをつく必要は全然ないんです。ウソもお世辞も、こころにないことを言つてゐるから、子どもはたまりません。こころの中で思つてゐることは、もう早稲くらくら伝わります。特に大事な場面ではそうす。

それをこまかせるのが、普通のおとな同士の関係なんです。だけど、傷つきやすい人、弱い人ほど人の気持ちがよくわかるというところがあるんです。簡単に言うと、病氣になつたときには、医者の態度だけ見ていて、何を考へているのか、すこよくわかる時があります。あれと同じで、子どもたちはおとなより弱い立場だから、おとなの気持ちがよくわかるんです。

ただ、放つておくと、悪口ばかり言ふくらいだつたら、もちろん、ウソでもほめた方がいいです。ただし悪口だけに比べたら、です。

ほんとに子どもをほめようと思つたら、すこし努力がいりますよ。たとえば学校でクラスに生徒が二〇人いたとして、その三〇人のひとりひとりほめようと思つたら、ものすごく大変です。その子がほめてもらつてうれしい、と思つては、その子が「うん」と納得することを言わなければならぬでしょう。だからだれにでも「きみ、よくできてるね、賢いね」なんて言つてもダメなんです。それはものすこしエネルギーがいりますよ。

前に聞いて笑つたのは、小学校の先生が、何年生か忘れたけど、子どもに「自分のいいところを五つ書きなさい」と言つたら、だれもすぐに書きなさいで、みんな書こうと思つたら、悪いところはよく覚えて、勉強はしてないし、お母さんの言うことはあんまり聞いてないし。

「そうやなしにいことを書くんですよ。家に帰つて聞いてきなさい。お母さんに聞いたらわかるから」と宿題にしたそうです。ところが家でお母さんに聞くと、ほとんどみんな怒られてしまふんですよ。「何言つたりですか、五つもありませんか」とかね。それか、ものすこし皮肉を言われるんです。「あなたは、ものすこしよい子だ、勉強もよくするしねえ」と言われて泣き出した子がいたりね。「そんないいことなんか考へんと、反省しなさい」と怒られたり。

先生は、子どもが学校で報告してきたことを全部聞いておいて、懇談会で親が来たときにその話をしたら、みんな「そういえば、うちもそうでしたわ」と大笑いになつたそうです。

おとなにしても「あなたのいいところ五つ書きなさい」と言われたら困るでしょう。「いいところ」と言つてゐるのに、「そうすねえ、私はあんまり努力しないんですよ」とか、悪いことを言う。自分でやつてみたらよくわかりますよ。まあ日本人でパツパツとすぐに五つ言えるような人は、だいたい会社や近所では評判悪いんで、そこが難しい。アメリカ人だつたら、平気で五つくらいパツと言います。

そんなですから、まあときどきポイント「うちの子どもいいところ、五つ言つてみようかしら」なんて、考へてみたらいいですよ。

そのときに「うちの子は算数で何点とつてきた」なんて言わないで「うちの子は笑顔がいい」なんて言える人がいたら、なかなかのもんです。子どもの笑顔なんて計測不能でしょう。それがピタツと言えたら、いいですね。

(河合隼雄『Q&A こころの子育て 誕生から思春期までの48章』朝日新聞社)

AO入試

指定校制
推薦入試

公募制
推薦入試

自己推薦入試

一般入試

センター利用入試

社会人入試

外国人
留学生入試

編入学試験

受験上の注意

出願手続

合格発表
入学手続
入学辞退

学費

奨学生制度

Q&A

平成30年度
入試問題

大学
公募制推薦入試
小論文

大学
公募制推薦入試
教養 (国語)

大学
公募制推薦入試
教養 (英語)

大学
一般入試
(国語)

大学
一般入試
(英語)

大学
一般入試
(数学)

短大
公募制推薦入試
小論文

短大
公募制推薦入試
教養 (国語)

短大
一般入試
(国語)

記入上の注意

記入例

教育福祉学部 公募制推薦入試 (前期) 「教養問題 国語」 (1)

びわこ学院大学 平成三十年度 推薦入学試験 「教養問題」

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人間が生きていく、ということとは、そのつど何かを選び、それ以外を捨てていく、ということである。それに比べると、動物の生は(少なくとも)ほとんど進化していない動物の生は、かなり単純である。腹をすかした蛙は、餌が視野を横切ったなら、とつさに舌をのぼして捕食する。餌の存在が認知されたら、とつさに舌がのびる。これは、進化の過程のなかで蛙の体にインストールされたプログラムによる自動的な動きであって、そこには選択の余地はない。

たしかに、人間の生にも、そうした「a」な行動はありうる。餌が目に入ったら、いいも悪いもなく「a」に手がのびて、とにかく口に入れる。強制収容所の囚人や、密林を敗走する敗残兵が、(一)飢餓の極限にまで追い詰められたときには、こうした「a」な行動が生じる。しかし幸いなことに、それが人間の常態なのではない。

腹をすかした人間が、食べ物を目にしたとき、まず生じるのは、複数の選択肢の集合である。すぐ全部を食べる、あるいは半分食べて残りを自分のためにとっておく、あるいは残りを他の人にあげる。食べるにしても、そのまま食べる、あるいは煮て、あるいは焼いて食べる……。私たち人間は、そのつど、そうした複数の可能性を前にして「他のようにもできるのだが、いまはこうする」という仕方、たつた一つの選択肢を選ぶ。生きているということは、ある可能性を選んでそれを現実と化し、それ以外の可能性を非現実へと葬り去ることに他ならない。

たしかに私たちは、日々の営みが滑らかに進んでいるときには、自分がそうした選択をしているということ、あまり意識しない。駅の改札口を通るとき、すれちがいに会釈をかわすとき、私たちは、いちいち「他のようにもできるのだが、いまはこうする」などと意識してはいない。しかし、いちいち意識しないで滑らかに行為している、ということとは、選択の余地なく自動的に振る舞っているということではない。

もし何ら選択の余地もなく、文字通りに自動的に振る舞っているのなら、「どういう理由(わけ)で、そうするのか」と問うことは意味をなさないし、問われたとしても答えようもない。しかし、何も考えずに右から二番目のレジに並んだときでさえ、「なぜ他のレジでなく、あのレジに並んだのか」という問いは、完璧に意味である。尋ねた人が二番目のレジにいた女性が気を配っていたときなどは、意味を通り越して(一)シノコ的な意味さえもちうる。

このように私たちは、どこまで意識している・いないにかかわらず、極限状態を別とすれば、そのつど複数の選択肢の中から、一つを選んで他を捨てることによって生きている。そして、こうした選択は、それが選択であるかぎり、なんらかの選択の基準・比較の尺度のもとで行われている。もちろん、比較・選択の基準は唯一ではないし、つねに(二)メイリョウに意識されているわけではない。しかし、「なぜ他のようにならず、このように？」という問いが意味であるということが示しているように、私たちの選択は、そのつどなんらかの基準のもとでなされている。

このことを物語っているのは、「ああするよりも、こうするほうがいい」という語法が、私たちのコミュニケーションにおいて不可欠だ、という事実である。こうするほうがいい」と語られるときには、どこまで意識されているか、いいか別として、なんらかの基準に照らして選択する、ということがなされている。

素粒子やα波の話すべてを抜き去っても、あるいは関ヶ原の合戦やフランス革命の話が封じられても、私たちの日々のコミュニケーションが滞ることはない。さらには、TVを観たパフォーマンスタシオンの無責任さや、ヒンネス・エンシックスの話題を抜き去っても、日々のコミュニケーションは可能である。しかし、「ああするのとこうするのでは、こうするのほうがいい」という「いい、いい」の語法が抜き去られたなら、私たち人間のコミュニケーションは、たちどころに滞る。ところが、この(一)肝心の「いい、わるい」という語が、すこぶる「b」なのである。

「いい、わるい」という語は、気分や天気、あるいは景気、製品、プログラムから、人の行い、人柄、ひいては法律や制度などなど、あらゆるものごとにかんじて用いられる。また、何にかんじて言われるのかに応じて、「いい、わるい」という語の適用の基準は異なっている。時計のよしあしが問題になるときの「いい、わるい」の基準は、税制のよしあしや、人柄のよし

教育福祉学部 公募制推薦入試 (前期) 「教養問題 国語」 (2)

あしが問題になるときは、まったく違う。

気分や天気について「いい、わるい」が言われるときには、「快い・不快」というのとほとんど区別できない。幼稚園から帰ってきた子供の顔を見て「なにか、いいこと・わるいことがあったの？」と親が尋ねるとき、そこで言われる「いい、わるい」は、「快くさせる・不快にさせる」という言葉に置き換える。

こう考えてくると、景気や製品あるいは人柄や制度にかんしても、「いい、わるい」の判断は、最終的には「人々のニーズを満たして快を与える・与えない」という区別に帰着しようように思えるかもしれない。じつは快樂主義(ヘドニズム、幸福主義)と呼ばれる立場に立つ哲学者・倫理学者は、そう考えてきた。たしかに、こうした考え方には一定の説得力はある。人間は、快を求め、不快ななし(三)クツウを避ける。この命題は、否定しがたい。「c」、それだけをもとにして、「いい、わるい」はすべて快苦に帰着する、と主張するのは、やはり早計である。

その理由は、こうである。「いい、わるい」はすべて快苦に帰着する、と主張するためには、ひとつが、どちらか一方を「よい」選択肢だとして選ぶときには、必ずや、その選択肢によつてはじめて可能となる快がある、と言わねばならない。しかし、そう断言するのは簡単ではない。たとえば「マザー・テレサは、修道院で(四)願望にふけるよりも、路傍に横たわるホームレスの重病人に寄り添うほうがいい」と考えた。もし、「いい、わるい」がすべて快苦に帰着するのなら、彼女がそうした選択肢したのは、「(五)瀕死のホームレスに寄り添うほうが彼女にとって快かったからだ」ということになる。

(d)「この伝で行けば、ソクラテスが脱獄するより毒杯を仰ぐほうがいい」と考えたのも、そうすることが彼にとって快かつたからであり、イエスがエルサレムにとどまって捕縛されるほうがいい、と思つたのも、そうすることが彼にとって快かつたからだ、ということになる。これは、あまりにも(e)乱暴な話である。

もちろん「快・不快」という言葉の意味を、そのように定義し直すことはできる。つまり、ある人にとつて「快い」ということは、その人が「よい」と思つて選んだ、ということの意味とする

と新たに定義し直すことはできる。そのように定義し直せば、「いい、わるい」はすべて「快・不快」に帰着する、という主張は、定義し直された「快」の意味からして、論理的に真だ、ということになる。

しかし、そうした真理は、「独身には妻はいない」というのと同様、まったく(一)空虚な真である。のみならず、右のように定義し直された「快」は、日々のコミュニケーションで用いられている「快」とはまったく異質である。このように、「いい、わるい」という区別を、おしなべて「快・不快」に帰着させることは、容易ではない。そして、このことが、もつとも(二)ケンチョになるのが、「道徳的な意味でいい、わるい」という区別、つまり「善悪」の区別である。

(大庭健『善と悪』倫理学への招待』岩波新書)

問八 傍線部 (一) 「空虚な真」という言葉が用いられたのは何故ですか、文中の語句を用いながら六十文字以内で書きなさい。

- ④ いい加減な話
- ③ 道徳的でない話
- ② 暴力的な話
- ① 論理が飛躍した話

問七 傍線部 (c) の「乱暴な話である」の意味について、もっとも近いものを次のなかから選びなさい。

- ④ この記録によれば
- ③ この解釈によれば
- ② このやり方によれば
- ① この言い伝えによれば

問六 傍線部 (d) の「(一)の伝で行けば」にもっとも近い意味を次のなかから選びなさい。

- ① つまり
- ② しかし
- ③ そして
- ④ だから

問五 空欄 c の中に入る接続詞を次のなかから選びなさい。

- ① 懐疑的
- ② 両義的
- ③ 多義的
- ④ 明示的

問四 空欄 b に入る語を次のなかから選びなさい。

- ① 懐疑的
- ② 衝動的
- ③ 他動的
- ④ 自動的

問三 空欄 a は三箇所にあります。すべて同じ語句が入ります。それは何か、次のなかから選びなさい。

- (ア) 飢餓
- (イ) 肝心
- (ウ) 願望
- (エ) 顔
- (オ) 顔
- (カ) 顔
- (キ) 顔
- (ク) 顔
- (ケ) 顔
- (コ) 顔

問二 傍線部 (一) (二) (三) (四) の漢字をひらがなで書きなさい。

- (一) シシコト
- (二) メイリョウ
- (三) タツウ
- (四) ケンチヨ

AO入試

指定校制
推薦入試

公募制
推薦入試

自己推薦入試

一般入試

センター利用入試

社会人入試

外国人
留学生入試

編入学試験

受験上の注意

出願手続

合格発表
入学手続
入学辞退

学費

奨学生制度

ひびこ学院大学
平成30年度 推薦入学試験 「教養問題」 (英語)

I. 次の文中の () 内から適切な語(句)を選び、解答欄にその語(句)を正確に記述しなさい。

- (1) My mother (buy, bought, was bought) me a blue bike.
- (2) She looks (at, by, like, take) her mother.
- (3) I want something (to drink, drinking, drinks).
- (4) Do you know the language (speaking, spoke, spoken, to speak) in Italy.
- (5) I have just (wrote, written, writing) the report.

II. 次の (1) ~ (5) の上下の文の意味がほぼ同じ内容を表すように、() にあてはまる適切な語を解答欄に正確に記述しなさい。

- (1) Our town has two libraries. () () two libraries in our town.
- (2) I am so tired that I can't play soccer. I am () () tired () play soccer.
- (3) He was very busy, so he missed a TV program last night. He missed a TV program last night, () () he was very busy.
- (4) He built the house alone. He built the house () () () .
- (5) We have a lot of rain in June in Japan. () () a lot in June in Japan.

III. 次の (1) ~ (5) の () 内の語を日本語の意味を表すように並び替えなさい。なお、解答欄には、並べ替えた語の2番目と4番目にくる語を順に記述しなさい。

- (1) 私は手紙を読んで嬉しくなった。
The (me, letter, made, happy).
- (2) 岡山にいる間にジョンを訪ねた。
I (while, visited, John, I, in, was) Okayama.
- (3) 彼女はピアノを弾くのが上手です。
She (a, at, good, playing, is, piano).
- (4) 彼はケイコと連絡を取り続ける約束をした。
He (in, promised, touch, keep, to) with Keiko.
- (5) 彼女はクラスで一番背が高い。
She is (class, her, tallest, the, in).

IV. 次の (1) ~ (5) の英文が表す英単語を解答欄に記述しなさい。ただし、英単語は【 】内の与えられた文字から書き始めること。

- (1) A place where many kinds of wild animals are kept for the public to see and where they are studied, bred and protected. [z]
- (2) A book in which you keep photographs, stamps, etc. [a]
- (3) A place where books, documents, CDs, etc. are available for you to look at or borrow. [l]
- (4) A completely round flat shape. [c]
- (5) The facts, signs or objects that make you believe that something is true. [e]

AO入試

指定校制
推薦入試

公募制
推薦入試

自己推薦入試

一般入試

センター利用入試

社会人入試

外国人
留学生入試

編入学試験

受験上の注意

出願手続

合格発表
入学手続
入学辞退

学費

奨学生制度

Q&A

平成30年度
入試問題

大学
公募制推薦入試
小論文

大学
公募制推薦入試
教養 (国語)

大学
公募制推薦入試
教養 (英語)

大学
一般入試
(国語)

大学
一般入試
(英語)

大学
一般入試
(数学)

短大
公募制推薦入試
小論文

短大
公募制推薦入試
教養 (国語)

短大
一般入試
(国語)

記入上の注意

記入例

教育福祉学部 公募制推薦入試 (後期) 「教養問題 国語」 (1)

びわこ学院大学 平成三十年度 推薦入学試験 「教養問題」

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私はこの世に生まれた以上何かしなければならぬ、と、いつか何をして好い少しも見当がつかない。私はちょうど霧の中に閉じ込められた(一)コドクの人間のように立ち煉んでしまったのです。そうしてどこからか一筋の日光が射してこないかしらんという希望よりも、此方から探照灯を用いたった一條の好いから先まで明らかに見たいという気がしました。ところが不幸にして何方の方角を眺めてもぼんやりしているのです。ぼうっとしているのです。あたかも霧の中に詰められて出ることのない人のような気がするのです。私は私の手にただ一本の筆さえあればどこか一ヶ所突き破ってみせるのだが、あせりぬけたいのですが、あいにくその筆は人から与えられることもなく、また自分で発見するわけにも行かず、ただ腹の底ではこの先自分はどなるだろうと思つて、人知れず陰鬱な目を送つたのであります。

私は①(一)こうした不安を抱いて大学を卒業し、同じ不安を連れて松山へ引越し、また同様の不安を胸の底に抱んでいつに外国まで渡つたのであります。しかしいつたん外国へ留学する以上は多少の責任を新たに自覚せられるにはきまつています。それで私はできるだけ骨を折つて何かしようと努力しました。しかしどんな本を読んでも依然として自分にはきまつていないわけにまゝりません。この義を突き破る筆はロンドンじゅう探して歩いても見つかりそうになつたのです。私は下宿の一間の中で考えました。つまらないと思つた。いくら書物を読んでも腹の足しにはならないのだと(二)諦めました。同時に何のために書物を読むか自分でもその意味が解らなくなつてきました。

この時私ははじめて文学とはどんなものか、その(三)カインを根本的に自力で作るよりほかに、私を救う途はないのだと悟つたのです。今まではまったく他人本位で、根のない、萍のよつに、そこいらをだたために漂つていたから、駄目であつたといふことによく気がついたのであります。私のここに他人本位というのは、自分の酒を人に飲んでもらつて、後からその品評を聴いて、それを理が非でもそうだとしまし、いよいよゆる人真似をさすのです。一口にこういつてしまえば、馬鹿らしく聞こえるから、誰もそんな真似をするわけがないと審みられるかも知れませんが、事實ははけつてそうではないのです。近ごろはベルグソンでもオイクンでもみんな向うの人がやかくいうので日本人もその尻馬に乗つて騒ぐのです。ましてそのころは西洋人のいふことだといへば何でも盲従して威張つたものであります。A わやみに片仮名を並べて人に(イ)吹聴して得意がたつ男が比々(どれこれ)皆是なりといいたくらくらいるころして(四)ました。他の悪口ではありませぬ、こういう私が現にそれだつたのです。たとえばある西洋人が甲という同じ西洋人の作物を評したのを讀んだとすると、その評の当否はまるで考えずに、自分の辭に落ちようが落ちまいが、むやみにその評を触れ散らかすので(五)つり(一)翻弄といつてもよし、また機械的の知識といつてもよし、とういわけが所有とも血とも肉ともいれない、よそよそしいものをわがもの顔にやべつて歩くのです。しかも時代が時代だから、またみんながそれを賞めるのです。

けれどもいくら人に賞められたつて、もともと人の傍着をして威張つてゐるのだから、内心は不安です。手もなく孔雀の羽根を身に着けて威張つてゐるようなのですから。それでも少し浮華を去つて筆尖につかなければ、自分の腹の中はいつまで経つたつて安心はできないといふことに気がつきました。

たとえば西洋人がこれは立派な詩だとか、口調がたいへん好いかいについても、それはその西洋人に見るところで、私の参考にならんことにはないにしても、私にそう思ふなければ、とうい受売りをすべきものではないのです。私が独立した一個の日本人であつて、けつして英国人の奴婢でない以上はこれぐらゐの見識は国民の一員として具えていなければならぬといふに、世界に共通な正直といふ(六)Bを重んずる点から見ても、私は私の意見を曲げてはならないのです。

しかし私は英文学を専攻する。その本場の批評家のいうところと私の考えと矛盾してははるが普通の場合が引けることになる。そこでこうした矛盾はたしてどこから出るといふことを考えなければならなくなる。風俗、人情、習慣、潮つては国民の性格みなこの矛盾の原因になつてゐるに相違ない。それを、②普通の学者は単に文学と科学とを混同して、甲の国民に氣に入るものはきつとこの国民の賞讃を得るにきまつてゐる、そうした必然性が含まれてゐると承認してかかると、そこが

教育福祉学部 公募制推薦入試 (後期) 「教養問題 国語」 (2)

間違つてゐるといふわけにはならない。たといこの矛盾を融和することが不可能にしても、それを説明することはできるはずだ。そうして単にその説明だけでも日本の文壇には一道の光明を投げ与えることができる。——この時ははじめて悟つたのでした。はなはだ遅まきの話で慚愧の至りでありませうけれども、事実だから偽らないところを申し上げるのです。私はそれから文芸に対する自己の立場を堅めるため、堅めるというより新しく建設するために、文芸とはまったく縁のない書物を読み始めました。一口でいふと、自己本位という四字をようやく考へて、その自己本位を立証するために、科学的な研究や哲学的的の思索を耽りだしたのであります。今は時勢が違いますから、この辺のことは多少頭のある人にはよく解せられてゐるはずですが、そのころは私が幼稚なうえに、世間がまだそれほど進んでいなかったため、私のやり方はじつさいやむをえなかつたのです。

私はこの自己本位という言葉をも自分の手に握つてからたいへん強くなりました。彼ら何者ぞと氣概が出ました。今まで茫然と自失してゐた私に、ここに立つて、この道からどう行かなければならないと指図をしてくれたものはじつにこの自我本位の四字なのであります。

自分すれば私はその四字から新たに出立したのであります。そうして今のようにただ人の尻馬にばかり乗つて空騒ぎをしてゐるようではなほなほ心もなほなほ動かないことだから、そう西洋人ぶらぶらでも好いという動かすべからざる理由を立派に彼らの前に投げ出してみたら、自分もさぞ愉快だろう、人もさぞ喜ぶだろうと思つて、著書その他の手段によつて、それを成就するのを私の生涯の事業として考へたのです。

その時私の不安はまったく消えませんでした。私は軽快な心をもつて陰鬱なロンドンを眺めたのです。比喩で申すと、私は多年の間懐疑した結果ようやく③自分の鐵鎧をがらりと鎧に振り当てるたような気がしたのであります。なお繰り返していうと、今までの霧の中に閉じこまれたものが、ある角度の方向で、明らかに自分の進んで行くべき道を教へられたことなるのです。

かく私が啓蒙された時は、もう留学してから、一年以上経過してゐたのです。それでどうも外国では私の事業を仕上げるわけに行かない、とにかくできるだけ材料を纏めて、本国へ立ち帰つた後、立派に始末をつけようといふ気になりました。すなわち外国へ行つた時よりも帰つてきた時の方が、偶然ながらある力を得たことなるのです。

ところが帰るや否や私は衣食のために奔走する義務がさつそく起りました。私は高等学校へも出ました。大学へも出ました。後では金が足りないので、私立学校も一軒覗きました。そのうち私は神経衰弱に罹りました。最後にくだらない創作などを雑誌に載せなければならぬ仕儀に陥りました。いろいろの事情で、私は私の企てた事業を半途で中止してしまいました。私の著わした『文学論』はその記念といふよりもむしろ失敗の口實です。しかも形勢の亡骸です。あるいは立派に建設されないうちに地震で倒された未成市街の廢墟のようなものです。

しかしながら自己本位というその時得た私の考えは依然としてつづいてゐます。否年を経るに従つてだんだん強くなります。著作の事業としては、失敗と終わりましたけれども、その時確かに握つた自己が主で、他は賓であるといふ信念は、今日の私に非常の自信と安心を与えてくれました。私はその引続きとして、今日なお生きていられたような心持がします。じつはこうした両、壇の上に立つて、諸君を相手に講演をするのもやはりその力のおかげかも知れません。

(夏目漱石『私の個人主義』中央公論新社)

問十 筆者が述べる「他人本位」と「自己本位」についてそれぞれ二十文字程度で説明しなさい。

- 1. 坊ちゃん
- 2. 硝子戸の中
- 3. 舞姫
- 4. いろはにほへ
- 5. 細雪
- 6. 三四郎

問九 この文章の作者のものではない作品を次から二つ選び、番号で答えなさい。

- 1. 直喻
- 2. 隠喩
- 3. 換喩
- 4. 擬人法

問八 傍線部③に用いられている表現技法はどのようなものか、次から選び番号で答えなさい。

- I. 作者は「文学」についてどのような特色があるとしているか、本文中の語句を用いて五十文字以内で説明しなさい。
- II. 作者は「文学」についてどのような特色があるとしているか、本文中の語句を用いて五十文字以内で説明しなさい。

問七 傍線部②について、I、IIの問いに答えなさい。

- 1. 「文学と科学とを混同」するとはどのような意味か。二十五文字以内で説明しなさい。
- 2. 作者は「文学」についてどのような特色があるとしているか、本文中の語句を用いて五十文字以内で説明しなさい。

問六 傍線部①「こころした不安」とはどのような不安か、その内容を次の空欄にあうように本文中から十五文字以内で抜き出しなさい。

問五 傍線部①「一」(鵜呑み)にする「①」の意味を書きなさい。

- 1. 真理
- 2. 常識
- 3. 徳義
- 4. 主義

問四 空欄 B に入る適切な語句を次から選び番号で答えなさい。

- 1. だから
- 2. また
- 3. けれども
- 4. そうはいつでも

問三 空欄 A に入る最も適切な語を次から一つ選び、番号で答えなさい。

- (ア) 諦
- (イ) 吹聴

問二 傍線部①「ハ」(ハ)の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- (1) コドク
- (2) ガイネ

問一 傍線部①、②のカタカナを漢字に直しなさい。

AO入試

指定校制
推薦入試

公募制
推薦入試

自己推薦入試

一般入試

センター利用入試

社会人入試

外国人
留学生入試

編入学試験

受験上の注意

出願手続

合格発表
入学手続
入学辞退

学費

奨学生制度

ひわこ学院大学

平成30年度 推薦入学試験「教養問題」(英語)

I. 次の文中の () 内から適切な語(句)を選び、解答欄にその語(句)を正確に記述しなさい。

- (1) Please tell me (what, how, which) to get to the station.
- (2) This is the cheese cake (what, who, which) I love.
- (3) It's time (went, going, to go) shopping.
- (4) The girl (wear, wearing, wears, worn) a red shirt is my sister.
- (5) Has he (do, doing, done) his homework yet?

II. 次の (1) ~ (5) の上下の文の意味がほぼ同じ内容を教すように、() にはあてはまる適切な語を解答欄に正確に記述しなさい。

- (1) Speaking Japanese is difficult for George. () is difficult for George. () speak Japanese.
- (2) My father said to me, "Do your best." My father () me () do my best.
- (3) My grandmother wrote a story. This is a story () () my grandmother.
- (4) We played baseball yesterday. We enjoyed it. We () () baseball yesterday.
- (5) My computer is broken. Something is () () my computer.

III. 次の (1) ~ (5) の () 内の語を各日本語の意味を表すように並べ替えなさい。なお、解答欄には、並べ替えた語の2番目と4番目にくる語を順に記述しなさい。

- (1) あまり食べ過ぎない方がいいよ。
You (much, not, better, had, eat, too).
- (2) この部屋はいつも彼が掃除します。
This (is, cleaned, him, by, always, room).
- (3) 彼女は次の日曜日ここへ来るだろう。
She (be, next, here, will, Sunday).
- (4) そのびんはお湯でいっぱいだ。
The bottle (hot, with, is, filled, water).
- (5) ここここのでタバコを吸うのをやめていただきたい。
I (would, smoking, you, like, to, stop) here.

IV. 次の (1) ~ (5) の英文が表す英単語を解答欄に記述しなさい。ただし、英単語は【 】内の与えられた文字から書き始めること。

- (1) A musical instrument with strings. You hold it under your chin and play with a bow. [v]
- (2) A room in which meals are cooked or prepared. [k]
- (3) A large ball of burning gas in space that we see as a point of light in the sky at night. [s]
- (4) The whole physical structure of a human or an animal. [b]
- (5) An object that you hold over your head when it is raining. [u]

平成30年度
入試問題

大学
公募制推薦入試
小論文

大学
公募制推薦入試
教養 (国語)

大学
公募制推薦入試
教養 (英語)

大学
一般入試
(国語)

大学
一般入試
(英語)

大学
一般入試
(数学)

短大
公募制推薦入試
小論文

短大
公募制推薦入試
教養 (国語)

短大
一般入試
(国語)

記入上の注意

記入例